

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170500959
法人名	医療法人 聡人会
事業所名	グループホーム さかい
訪問調査日	平成 19 年 4 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 6 月 29 日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 2170500959
法人名	医療法人 聡人会
事業所名	グループホーム さかい
所在地 (電話番号)	各務原市蘇原沢上町2丁目43番地 (電話) 058-380-3232

評価機関名	NPO法人旅人とたいようの会
所在地	大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成19年4月12日

【情報提供票より】(19年4月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 12 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 1.0 人	

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨造り 2階建て <input type="checkbox"/> 1階 ~ 2階部分 <input type="checkbox"/>	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(4月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 74 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 聡人会 酒井クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が設立したグループホームである。地域密着型として理念の中に『地域とともに生きる』を掲げ、地域の老人会への参加など交流に努めている。入居し、その地域で暮らし続け、重度化した場合や、終末期について家族と話し合いを繰り返し家族の思いをかなえるように支援している。法人代表者である医療法人との連携を取りながら、職員の『最期まで看取りたい』という思いのもと、24時間の医療連携があり、終末期ケアに積極的に取り組み実績もある。同一法人内ディサービス行事への参加や、介護度の高い人にはディの機械浴を利用する等、法人内サービスを利用できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>緊急時の対応については24時間の医療連携体制をとり、終末期ケアの実績もあり取り組みがなされている。市町村とのかかわりについては運営推進会議を通し連携がなされている。鍵をかけない工夫についてはまだ十分な取り組みがなされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人代表者、運営者は、自己評価、外部評価の実施する意義をよく理解している。自己評価および前回の外部評価の結果はミーティングで取り上げ、災害対策など具体的改善に結びつけるよう取り組みつつある。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回の運営推進会議で、ホームの年間行事予定や、実情を知りたい等の提案があり、ホーム側は早速取り組み向上にいかしている。市町村とは運営推進会議で取り上げる内容や、自己評価やアンケート内容などを相談し、運営上の課題に対してアドバイスを受けるなど、月に何度か出向き情報の共有に努めている。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>カラー写真などでレイアウトされたホーム使いを毎月発行している。その中には新しい職員の紹介やホームの最近のニュースなど、一人ひとり個別に日頃の様子を記入する欄も設けている。訪問出来無い家族には職員が出向き、直接手渡ししながらいる報告をおこなっている。運営推進会議の提案による年間行事予定表の中で家族の交流会を組み、外出支援への要望や、職員紹介の方法など活発に意見が出され、それを運営に反映させている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎週木曜日、地域の老人会にグループ・ホームからも希望者が参加して昼食を共にし、レクリエーションや 創作活動などを一緒に楽しんでいる。また小学生の合奏や中学生のボランティアの訪問などもある。地域やグループホームの行事にも共に参加しあつて交流をしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を持ち、その一つに『地域と共に歩む』がある。地域住民として共に生活をするという事を全員で確認しあっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎朝の申し送り時に理念を確認し、話し合っている。職員は、不穏状態の利用者に対し理念に立ち返り、どうすればいいかを考え毎日のケアの中で活かしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎週木曜日、地域の老人会にグループ・ホームからも希望者が参加して昼食を共にし、レクリエーションや創作活動などを一緒に楽しんでいる。また小学生の合奏や中学生のボランティアの訪問などもある。地域やグループホームの行事にも参加しあって交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人代表者(運営者)は、自己評価、外部評価をよく理解している。自己評価および前回の外部評価の結果はミーティングで取り上げ、具体的改善に結びつけるよう取り組みを行なっている。前回の外部評価について、まだ改善されていない点がある。	○	前回の外部評価項目に対して、改善されていない点がある。更なる具体的改善を検討してほしい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、運営推進会議を開き、話し合いの中でホームの年間行事予定表や、ホームとはどんな所なのかその実情を知りたいとの提案があった。ホーム側は早速取り組み向上にいかしている。	○	市や地域包括支援センターにより運営推進会議は3ヶ月に1回開催されているが、おおむね2ヶ月に1回以上定期的に開催することとなっているので、更なる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に何度か出向いて、運営推進会議で取り上げる内容、自己評価やアンケート内容など運営上の課題に対し相談し、アドバイスを受けて情報の共有化に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラー写真などでレイアウトしたホーム便りを毎月発行している。新しい職員の紹介やグループホームの最新のニュースの他に、一人一人個別に日頃の様子を記入する欄も設けている。訪問出来無い家族には職員が出向き、直接手渡し報告をおこなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の提案による年間行事予定表の中に家族の交流会が生まれ、その中で外出支援への要望や、職員紹介の方法など活発に意見が出され、それを運営に反映させている。	○	家族からの言いにくい苦情を積極的に取り組む為に、公的機関の窓口なども重要事項説明書に明示してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任の職員用に業務内容を見易くまとめたものを活用するなど、継続性への配慮もみられる。しかし、異動や離職に関しては、利用者への対応を個別に職員に任せている。	○	利用者や家族のそれまでに培った信頼関係や、なじみの関係を突然になくす以前に段階を経ての異動や離職に配慮して、内面への細やかな心くばりにも取り組んでほしい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回日曜日のフロア毎のミニミーティング、毎月1回の研修会や、外部講師による研修会等実施し、パートの職員も参加している。積極的取り組みとして外部研修への参加者には交通費が支給され、発表とレポートにより伝達が計られている。現場では互いに話し合ったりスーパーバイザーとしての上司に相談するなど働きながら経験を積んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会している。勉強会の講師として招いて、苦情相談の対応について研修したりしている。今後は災害時の連携などを含めたサービスの質の向上のためのネットワークづくりなど交流を深めようと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスに通っていた利用者にはその職員と共に時々訪れて慣れてもらったり、それ以外の人は家族と一緒にお茶を飲みにきてもらい徐々に馴染みながら利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	なかなか心を開いてもらえず対応に苦慮する時、自分達の理念としている「尊厳を大切に優しい笑顔で向き合う」に立ち戻り、本人の気持ちを受け入れ、改めて他の方法で通じ合えるよう工夫して関係を築いている。昔からのしきたりを聞き人生の先輩としていろいろ教えてもらっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使い本人のしたことなどを介護日記に書きとめ希望の把握に努めている。毎日曜日にミーティングを行い、職員間で周知徹底し、それに添えるように支援している。	○	センター方式を利用し、本人の意向の更なる把握に努める為、介護日記の記述の工夫に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族はもちろんの事、参加希望の本人や一人ひとりの担当職員、計画作成者が3ヶ月に1回計画作成時話し合いを持ち、ミーティング時の職員の意見を交えながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	緊急事には会議を開き新しいプランを作成する。月に1回は見直しを行い記録に記載し現状に即したプランになるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望があれば一緒に墓参し、眼科や皮膚科受診に付き添う等している。また24時間の医療体制を整え本人の要望に答えられるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の主治医を持っている利用者は、家族付き添いで受診している。その結果をホームのかかりつけ医師と主治医とで連携を取りあい、さらに事業所にも伝えて適切な医療の継続が出来るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い時期から家族と何度も話し合いを持ち、看取りへの同意を得、医師や看護師の24時間緊急時医療協力体制をとり職員も協力して終末期医療に取り組んでいる。又家族が泊まる事が出来るように配慮もしている。職員は『最後までここで過ごしてほしい』と言う思いを共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日曜の昼のミーティングは個人情報が入らないように利用者の昼寝の時間に行っている。ホーム便りの写真の掲示、本人の許可を得ての部屋への入室、オムツ交換時への配慮、ポータブルトイレをパーティションで隠す等、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日訪問のある家族からは意見を聞いたり、夜勤の時間にゆっくりと利用者に向き合い希望を聞き、家族が同行しての喫茶店・買い物・踊りの趣味の継続等希望に沿っての支援を心がけている。家族が訪問出来無い利用者に対してはその希望に添えるようにボランティアの募集を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一法人内の管理栄養士が管理し、調理職員が作った昼食はバランスが取れている。時どき介助が必要だが、時間をかけて出来るだけ自力摂取できるよう支援している。食事中、利用者や職員の会話が少なく職員も自分の弁当を持ってきてテーブルについている。当日は利用者の外出が多く、一緒に準備やかたづけ場面の見学は機会が無かった。	○	利用者個々の力を生かしながら職員と一緒に食事を進めるための取り組み(食べる楽しみだけでなく調理への参加や、一緒に食卓について同じ物を食べる、材料を買いに行く、献立を立てる、郷土食を教えてもらう、話題を探し会話をうながす等)について今後検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	同性介助を希望する利用者には対応し、毎日入浴希望の利用者にはそれを支援している。又介護度が高く一般の浴槽で介助しにくい人には、同一法人内のデイサービスの機械浴を試みるなど積極的に入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、モップがけをしたり、介護度が高くお風呂が好きなお人には2人介助でおこない、その人の楽しみを生かす支援を行っている。又男性は一家の柱のごとき存在となり、家長としてカーテンの開け閉めが役割となり、ホームの1日の始まりと終わりを告げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は毎日散歩に出かけ、車椅子の利用者は中庭で日光浴や、お茶の時間とする等、外気に当たる工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通事故や不審者の侵入という理由で玄関の鍵や中庭への鍵はいつもかけてある。利用者の尊厳を大切に、自由な暮らしを支えるための鍵をかけないケアがなされていない。	○	安全を第一に考えて鍵かけがなされている。安全を重視するあまり失われてしまっている大切な物が無いか、理念に立ち戻ってその弊害や認知症という病気への対応等、皆で再検討し取組まれる事を希望する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な消防訓練は行っている。要介護度の高い利用者も多く、夜勤は1人となる為災害時に不安があるが、その取り組みがなされていない。	○	昼夜に関係なくおきる非常災害時に、近隣との関係はとても大切と思われる。運営推進会議などで常日頃話題にし、協力が得られるよう具体的な取り組みをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって栄養のバランスは管理されている。摂取量・水分補給状態などはその都度細かくチェックして、個別の記録表に整理されている。飲み込み易さ、摂取方法など一人一人の状態に合わせて自立の支援をし、変化があれば主治医の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンで直射日光をさえぎり、所々に観葉植物が配置してあり畳コーナーもある。食事の時間になると、食欲を誘う匂いが漂い五感を刺激している。共用空間に、利用者の元気だった時代を感じさせるような物が少ない。車椅子移動の人も多く物を置くには工夫がいると思うが、かつての生活感あふれる物が共用空間にあってほしい。	○	昔の祭りや風景写真・掛け軸・古民具など、利用者が元気だった頃を偲ばせる物を飾り、話題を提供するなど、時代を感じさせる家庭的な空間づくりに取り組んでほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ち込まれた椅子やテレビ、箆笥など、使い慣れたもので居室づくりがなされている。畳を使用したり、趣味の観葉植物を居室に置いて世話をしたり、お経が好きな場合には、いつでも聞けるようにして居心地よく暮らせるための居室の配慮をしている。		